

独自のアプローチで ハードと商品企画を追求 2020年30施設を目指す 長谷川ホテル&リゾート

標に全国でホテル事業の拡大を進める。長谷川ホールディングス(株)は、今年9月にイギリスの大手投資ファンドCVCキャピタルパートナーズの資本を受け入れIPOを目指す方針で、ホテル事業をはじめ新たに手がける分野は長谷川トラストグループ傘下の各社が担っていく。

ホテルビジネスは1号店のキャビンタイプに加え、宿泊主体型とリゾートの3つの業態で展開していく考えで、目下、13施設の新規出店が、いずれもリース形態で契約済み合意済みだ。キャビンタイプでは、難波・那覇・札幌、宿泊主体型では札幌・旭川・千歳・新大阪・尼崎・那覇、リゾートでは沖縄・石垣島・熱海、京都では宿坊も計画している。

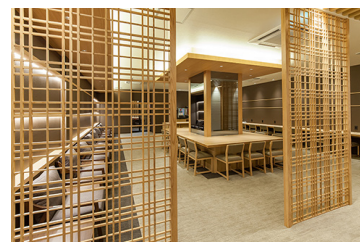
ユニークなのは、出店エリアのマーケットに合わせたマーケットアプローチによるハードのつくり込みと商品販売企画だ。

たとえば、キャビンタイプであれば駅近立地にこだわり、主なターゲットを国内のビジネス出張とし、急激なADRの上昇で出張基準に合わなくなった宿泊ニーズを取り込んでいく。

この業態では昨今新規参入が活発化しているが、160ベッドを擁するワイズキャビン横浜関内は、キャビンサイズを幅140cmと広く設定し、パソコンが置ける収納式のテーブルやジャケットが掛けられる鍵付きのク



安全性や機能性を追求したオリジナル規格のキャビン



くつろげるソファやWi-Fiを完備したラウンジでは朝食(500円)を提供



「ワイズホテル阪神尼崎(仮称)」のツインルーム

ローゼットなど、機能性を高めているのが特徴だ。また、サウナ併設の大きな浴場(男性用のみ)、清潔感あふれる女性用パウダールーム、ラウンジ、ホテルさながらのエントランスなど他社の類似施設とは二線を画す。

開業後の動向について、同社代表取締役社長の阿部夏樹氏は「女性のお客さまからは清潔感や安全安心などの面でたいへん高評価をいただいています。フロア構造上、女性専用キャビンは限られています。女性は女性比率を高め、女性用の大浴場も完備します」と語る。横浜関内では客室稼働率は85%、ADR 4500円を目標とする。

また、宿泊主体型はミドルクラスで大浴場を併設し、国内客で60%のシェアを確保。「過度にインバウンドに依存せず、国内のリピーター獲得がホテル事業の安定には欠かせません」(阿部氏)といい、とりわけ販売価格での配慮をみせる。

特徴的な例として、阪神電鉄本

線尼崎駅前に出店するホテルは「ユニバーサルスタジオジャパン」を利用するレジャーニーズの獲得に注力。周辺のホテルはシングルが多く、レジャー利用には適していないため、ツインルームやコネクティングルームなどを多めに配し、既存ホテルとの差別化を図る。

さらにリゾートホテルでは、ファミリーのほか、長谷川ホールディングスが既存事業で培ってきたシニア層の顧客基盤を活かした3世代利用をターゲットとする。加えて、単なるリゾート滞在だけでなく、ホテルスタッフとしての雇用促進も含め、アクティブシニアのロングステイを積極的に取り込んでいく考えだ。

後発ゆえにフレキシブルかつユニークなポジショニングを志向しつつ、仮にホテル需要が縮小してもシニア住宅への業態転換も検討できるといふ、長期安定を求めるデベロッパーのニーズに即した展開とユーザー目線の商品開発が同社の強みといえる。

長 谷川トラストグループ(株)傘下の長谷川ホテル&リゾート(株)は、横浜市中区にキャビンホテル「ワイズキャビン横浜関内」を10月29日にオープンし、ホテル事業の本格展開をスタートさせた。

同社は、「おそうじ本舗」「靴専科」などのフランチャイズビジネスサービスや介護サービス、子育て支援サービス事業などを展開する長谷川ホールディングスグループから独立した新設会社で、「Y・sホテル」ブランドにて2020年までに30施設を目